令和８年度第７回　感染症発生動向調査協議会

令和８年１０月２１日

月番：澤田　明

１　前月の感染症発生動向について（2026 年第 36 週～39 週・9 月）

＜全数把握対象疾患＞

- 一類感染症の報告はなかった。
- 結核は 23 例あり、毎週コンスタントに報告された（前年比: 91.9%, 前々年比:91.5%)。20 歳以上の各年齢層で認められた(特に 80 歳以上の高齢者が最も多かった)。
- 腸管出血性大腸菌感染症は、7 例（0157:4 例, 0103, その他, 不明:各々1 例)報告された（前年比: 127.8%)
- 四類感染症の報告は,E 型肝炎 2 例(前年比:110.0%, 前々年比:366.7%)、レジオネラ症 10 例(前年比:71.4%、 前々年比:159.1%)であった。
- 五類感染症
  - ✓ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3 例、後天性免疫不全症候群 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、 水痘 2 例、百日咳 3 例（前年比: 5.4%)の報告があった。梅毒は 10 例報告された（前年比:70.2%、前々年比:101.0%)。

＜定点把握対象疾患＞

- 増加傾向にある疾患
  - ✓ インフルエンザ（前月比:1395.9%, 前年同期比:1803.7%)---39 週は急増、前年同期よりも遥に多い
  - ✓ ヘルパンギーナ（前月比:291.6%, 前年同期比:213.5%)
  - ✓ RS ウイルス感染症（前月比:326.3%, 前年同期比:96.4%)

- 減少傾向にある疾患
  - ✓ 手足口病（前月比:78.9%、前年同期比:1707.7%)
  - ✓ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（前月比:94.3%、前年同期比:101.0%)

２　検討すべき課題

特にありません。

３　情報提供すべき事項

特にありません。

４　情報提供（月番委員専門分野から）

特にありません。

＜検討結果＞